

# Handsome

発行人:鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 福田一哉 編集責任者:植田寿雄 制作・編集:メディアコミュニケーション委員会 印刷所:東京印刷株

## 新年のご挨拶



鳥取県西部中小企業青年中央会 第32期会長  
福田 一哉

新年あけましておめでとうございます。  
旧年中は、会員及びOB会員の皆様をはじめ、多くの方々にご支援ご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。  
本年もどうぞよろしくお願いいたします。  
第32期の青年中央会は、「地域づくり、人づくり、ビジネスづくり」に焦点を置き、我々のスピリッツであります「自由な発想と大胆な行動」を実践すべく、日々研鑽を積んでおります。  
あっという間に半年が過ぎましたが、各会員それぞれが色々な経験をしながら、とにかく前に進もうとしているところでございます。  
昨年の忘年例会でも申し上げましたが、鳥取県西部中小企業青年中央会のOB会員は、既に300名を越え、それぞれに各分野で大活躍をされておられます。それぞれのお立場から私たち現役の活動をありとあらゆるところから支えていただき、私たちの活動が、より有意義なものになっていることは言うまでもございませぬ。私ども現役といたしましても、永瀬初代会長がおっしゃるように、「未来に生き、未来に責任を持たなければならない者」として、鳥取県西部地域の将来について、より真摯に考え、益々地域に貢献していかなければならないと考えます。  
今後は、OB会員の皆様との連携を更に深め、「地域を作っていくのは、我々だ!」という気持ちを絶えず忘れず、目標に向かって邁進したいと思っております。  
「真面目に活動した者は、必ず報われる会」を目指して精進いたしていく所存であります。  
今年、一層のご理解とご協力をお願いしますとともに、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈りいたしまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。



鳥取県中小企業青年中央会 第32期会長  
釜田 公文

平成19年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。  
昨年は、いじめ問題・自殺・自分の子供を殺したり他人の子供を殺めたり非常に悲しく嘆かわしいことの多い一年だったように思われます。今、我々に「教育問題を何か考えて!」といっているように感じるのは私だけでしょうか?  
本年度のスローガンである「地域貢献」もスタートを切りました。各地域いろいろ事業に対する想いは様々だと思いますが、私は、何事もするべきことをやってみて、無駄なことではないと信じて行動しています。やってみて初めて問題点などがわかり、よりよいものになっていくのではないのでしょうか。  
私は昨年、山口県にて開催された中央会青年部中国ブロック会議に講師として招かれましたが、参加者の多くが私たちの所属する青年中央会の素晴らしさと独立性にみな驚いていたようで、誇らしい気持ちにもなりました。  
私の在任もあと半年となり、時の過ぎる早さに改めて驚かされます。残り半年悔いの残らないような活動を心がけていく所存ですので、西部青年中央会および各地域の皆様には、鳥取県青年中央会の活動にご理解ご協力をいただき、更なる発展を目指していきたいと思っております。  
最後になりましたが、会員すべての方に大変感謝しております。これからもより一層努力していく所存ですので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

# 12月忘年例会開催 ～ 笑顔集楽 鳴子舞う ～

しょう かん しゅう らく



平成18年12月18日(月)米子全日空ホテルにおいて総務委員会担当による鳥取県西部中小企業青年中央会「鳴子(おどる)忘年例会」がOB会員39名と来賓をお迎えし開催された。福田会長は挨拶で「トライ&チャレンジをテーマに半年間活動してきた中で感謝したいのは、我々がいろいろな問題や壁にぶちあたった時に、OB会員の方々から叱咤激励とご指導をいただいたことです。その豊富な経験とバイタリティに加え、現役会員の旬な発想と大胆な行動があればもっとこの地域を活性化していけるだろう。」と語られた。

続いて、鳥取県中小企業団体中央会 岡田端副会長、中村昌哲OB会会長よりご挨拶いただき、野坂康夫米子市長のご発声で乾杯をおこない半年間の活動の労をねぎらいあった。

今回の忘年例会でメインイベントは平成16年12月以降入会した新入会員24名(当日は22名出席)による「よさこい」である。ダンススタジオJ AMの目次裕子先生(目次俊夫OBの奥様)、金森恵子先生の全面協力のもと実現したビッグプロジェクト。この日のために新入会員は11月初めよりよさこいの練習に励んだ。

歓談も落ち着き、ほろ酔い気分になった頃、総務委員会 川村副委員長の司会で「よさこい」が始まった。場内が暗くなり、司会者が一人一人新入会員の名前を呼ぶと、真紅のTシャツと黒のスエットに身をつつんだ新入会員がそれぞれ威勢のいい掛け声を叫びながら登場した。新入会員は各テーブルに「鳴子」を配り、よさこいへの参加を促した。

会場に一齐に鳴子の音が響き、よさこい踊りが始まった。その一糸乱れぬ見事な踊りに会場はしばし静寂が走ったが、その静けさはすぐ興奮へと変わった。出席者全員が立ち上がり、鳴子片手に見よう見まねで踊りはじめた。笑い声と鳴子の音、会場はまさに「鳴子(踊る)忘年例会」となった。

最後に中村勝治境港市長が「この会に出席すると地域経済を担う若いみなさんのパワーをしっかりといただける。」と1本締めで閉会した。

来賓、OB会員の方々、現役会員全員が1年の労を労い、来年に向けてリフレッシュできたのではないだろうか。

(記事:本池)



## 委員会 BunBun 訪問



～ 委員会は会議室だけでやっているのではない… 現場でもやっているのだ!! ～

### ● 総務委員会 ●



平成18年12月11日(月)米子全日空ホテルにおいて臨時総務委員会が開催された。今日はいよいよ来週にせまった「忘年例会」のリハーサルである。本番の会場にて例会の一連の流れ確認とアトラクションの最終リハーサルが実施された。今回の例会のアトラクションは平成16年12月から平成18年11月までの新入会員24名でおこなう「よさこい踊り」である。11月初旬から山本克美会員をリーダーに、計6回の練習をダンススタジオJ AMの目次先生、金森先生にご指導いただき、何とか形になってきた。

午後7時「こんばんは」、「こんばんは」と男たちが集まってきた。本番で着る赤いTシャツと黒のスエットパンツに着替え、オープニングのために自己紹介をビデオにおさめた後、いよいよリハーサルが始まった。

1回目。川村副委員長の紹介でロビーから入場。…元気がない。照れとるな。…それぞれのたち位置を確認後、とりあえず曲に合わせて踊ってみる。…振り付けを思い出しながら。ぎこちない。…

2回目。踊りを思い出したのかだいぶ良くなってきた。が、その時、武海直前の口からゲキが飛ぶ。「お前らのおどりを見とって全然おもしろくないわ。元気がないし。楽しそうにおどらにゃ誰も一緒になって踊ろうとは思わんわ。」…そのとおり。…

「やばい。直前も怒るとるようだ。ゴリエやウォーターボーイズと比べられてもかなり見劣りするかもしれん。しらけた例会になったらかなりまずいぞ。」と思ったらしい新入会員たちは何かがつきれたように踊りだした。大声を出しながら、汗を光らせながら、踊る、踊る、踊り続ける赤い軍団。…結構やるね。いいかも。…あとは本番のお楽しみ。本番に強い中央会の伝統を引き継ぎ、きっと忘年例会を盛りあげることだろう。

よさこい踊りのリハーサル終了後も、中村委員長を中心に総務委員会のメンバーで最終確認作業が遅くまで行われた。

(記事:岩田)





第22期卒会  
赤石 有平OB

Q. 入会当時の中央会の様子は？

A. 平成元年入会、フレッシュ委員会に所属。熱心に活動されている方が多く、よく酒も飲んだ。いまでも

同期の人間関係は続いていますよ。

Q. 思い出・エピソードについて聞かせてください。

A. 厄落としの会とか色々なことが思い出されますが、やっぱり平成8年に行われた「夢みなと博覧会」が印象に残っています。高知との2元中継は下準備から大変でしたが、やり遂げたという達成感があります。

Q. 中央会に望むこと

A. 中央会は異業種の人と会える絶好の機会の場です。中央会に入会していないと、得ることのできない人間関係・情報がある。それらがゆくゆくはお金では買えない「財産」となります。卒会するまでの8年間はあっという間だったし、卒会して改めて中央会の良さを感じています。ですから現役会員の皆さんには、自分が何の為に中央会に入会しているのかを考えて活動して欲しい。貴重な時間を中央会に費やすのだから、中央会でいろいろなことを学んで欲しい。そして中央会で学んだことを、会社・地域・家庭に持ち帰り、活かして欲しい。中央会に入会しているというだけでは意味がない。

この頃、年代的に人の世話をするようになってきましたが、今思えば、中央会での経験が本当に活かされていますよ。中央会で人のお世話をする機会があるなら、しっかりやって欲しい。それがきっと自分に返ってくる。あと、「綱領」をしっかり理解して欲しい。「綱領」がすべてだと思います。

今回赤石OBには、お忙しい中であつたにもかかわらず取材を受けていただきました。取材にあたって、我々の名前と、「西部青年中央会」のネーム入りの「かわらせんべい」を用意して下さっていました。取材当日は雨が降っていたのですが、取材を終えた我々を雨の中、傘もささずにお見送りいただいた赤石OB。そのやさしい人柄にふれさせていただけたことに感謝します。(記事:内藤)



エコチャレンジ委員会  
木下 勝 会員

私の趣味はフィッシングである。陸釣り専門に小学生の頃から現在に至るまで30年余り続いている。現在はルアーと餌木といった疑似餌を使用した釣りを主体に、年中海に通い食材確保に精を出している。

ルアーとの出会いは釣り雑誌にルアーで鱸(スズキ)が釣れることが紹介されていたことがきっかけであるが、体験したことがないものは信用できないものである。

しかし道具さえあれば、何時でも好きなときに釣りをすることができる手軽さに惹かれた。

そして8年前にルアー釣り入門書を購入し、釣りの成果を発揮すべく実地訓練を行ったが、全く反応がなく、「こんなもので魚が釣れるの?」という半信半疑の中で、ただただルアーを繰り返しキャストする日が過ぎていった。

だがそんな思いを吹き飛ばす運命の出会いが訪れた。その魚(76cmの鱸)は私の操るルアーを追って水面を飛び出し、ルアーを喰え、沖に向かって一気にラインを出していったのだ。このやりとりは餌釣りをやっていた頃では味わったことのない興奮を私に与えてくれた。

これを機に一気にルアーフィッシングの虜になったのは言うまでもなく、ルアーフィッシングは小魚を捕食する魚の特性を利用した理にかなった釣法であることを実感していくことになる。

これがルアーフィッシングにはまり、「Try&Challenge」のひとつの結果である。

(記事:村上)



日本誕生の地? 山陰史跡巡り Waku-Wakuツア-開催!!

平成18年11月19日(日)わくわく発掘委員会による山陰史跡巡りツアーが行われた。ナビゲーターとして昨年5月例会でも講演していただいた邪馬台国山陰説提唱者、田中文也先生をお招きし、福田会長を筆頭に委員会メンバー他総勢19名が小雨の中、鶴田会員の運転するマイクロバスでスタートした。山陰道を取りながら田中先生に歴史の説明、観光案内もしていただき、出雲古代博物館に到着。来年3月の開館だが特別に入館、約20分説明を聞きながら館内を一周。その後となりにある出雲大社に移動。雨が激しくなったが祭務部長から出雲大社の歴史等の話をお聞きした。昼食は島根ワイナリーでパーベキュー。休む間もなく次の目的地へ。荒神谷遺跡で銅剣について学び、淀江の妻木晩田遺跡へ。そして日も暮れ始めた頃、最後の目的地である美保関神社に到着した。駆け足で巡った山陰の史跡だったが、参加者からは「次回も企画したい」「参加したい」との声があり、今後の展開に期待したいとおもいます。最後に1日中話をしていただいた田中先生ありがとうございました。そして次回もよろしくお願いします。

(記事:景山)



## 裁判員制度意見書提出その後 ～司法問題はアホルケ?～

現役員諸氏には旧聞に属する話となりますが、昨年度司法問題研究委員会では裁判員制度を年間テーマに据えて活動を行いました。

同委員会では活動当初から同制度の不具合や関係省庁間のエアポケットに気がつき、そのため半ば揚げ足取りにも似た非建設的な内部議論に陥りかけた時期もありました。

しかしながら、当青年中央会のアイデンティティや歴史に照らし、「より良い制度運用に向けて、地方に暮らす中小企業事業者ならびに被雇用者の立場から、懸念される労務問題等を中央に届けたほうが有意義」との観点に立ち、2月には法務省を訪ねて担当企画官と予定時間をオーバーするほどの熱い議論を戦わせました。また、その足である高名な日本のリーディングカンパニーも訪問して北米駐在経験を持つ社員の方から米国陪審員制度との奇妙な類似点を聞き出すことができ、年度末に作成することとなる意見書に少なからぬ影響を受けることとなりました。そして、6月には出来上がったばかりの意見書を手に最高裁判所ならびに鳥取地方裁判所を訪問し、地域コミュニティの保全を強く訴えると共に、同制度の広域的かつ弾力的な運用の模索をお願いしてきました。

新年度を迎えてからの同制度への調査・研究は有志による活動へと衣替えしましたが、その勢いは衰えることなく、11月には鳥取県商工労働部に部長を訪ね、地方の地域コミュニティの特異性に理解を示していただき、手渡した2冊の意見書のうち1冊を知事の手元にまで届けていただきました。また、12月に鳥取市で開催された裁判員シンポジ

ウムに参加した折には、パネリストを務められた法務省刑事局長の口から『鳥取県は素晴らしい。西部地域の経済団体が1年間裁判員制度について考察を深め、成果物である意見書をわざわざ上京して届けてくれた。同制度への県民の問題意識と行動力は特筆ものだ。』との最大級の賛辞をいただくことができました。多分にリップサービスが含まれていた発言かもしれませんが、当事者としては最高裁判所にしか届けなかった意見書が省庁間の壁や省内の役職の壁を越えて回し読まれたという事実に望外の喜びを感じたことは言うまでもありません。今後は、鳥取県西部県民局に局長を訪問する予定でありますし、環境が許せば厚生労働省への訪省もあるやもしれません。制度施行までもうしばらく現在進行形が続きます。

最後に、手前味噌となつてたいへん恐縮ですが、今回の委員会ならびに有志の活動を経て、地域に果たす青年経済団体の役割はせせこましく利害や損得を見積もることであってはならないし、その活動には口先だけではない周到な準備と勇気を持った一歩が重要となるとおもいらされ、改めて先の30周年記念事業において宣言した「オピニオンリーダーからアクションリーダーへの脱皮」の意味を噛み締めた次第です。しつこく、ネチこい私たち阿呆たちの活動の行き先は出口と入口が引付いた得体の知れない流刑地のようなものですが、地方に暮らす青年経済団体の一員として、また、明日の裁判員候補者としてこれからも同制度を勉強していきたいとおもいます。

(記事:第31期司法問題研究委員会 後藤 公平)

## 12月度委員会報告

### 総務委員会

平成18年12月6日(水) 於:米子全日空ホテル 出席者/13名

議題・会員拡大ツールについて

・忘年例会企画(案)について

・忘年例会関連会場並びに控え室視察確認

### エコチャレンジ委員会

平成18年12月7日(木) 於:ホールサムインかいけ 出席者/10名

講演:講師 石田 康雄氏 (株)エコマ商事社長

演題「チャレンジ精神による販売開拓」

(株)エコマ商事 廃プラスチックリサイクル製品(エコウッド)の研究・開発と販売

### ビジネス交流委員会

平成18年12月6日(水) 於:岩崎館 出席者/10名

議題・上期活動の感想と反省 ・下期活動計画について

### メディアコミュニケーション委員会

平成18年12月7日(木) 於:まつだ家 出席者/13名

議題・ハンサムについて ・HPについて

・中央会番組について

### 政治行政委員会

平成18年12月11日(月) 於:岩崎館 出席者/10名

議題・JR米子駅の自由通路(橋上化)の計画案と駅周辺活性化の構想について

・半年間の活動のまとめ

### わくわく発掘委員会

平成18年12月7日(木) 於:海潮園 出席者/11名

議題・11月19日(日)「山陰史跡巡りツアー」委員会会員の感想

・下期計画表(案)の発表及び説明 ・月ごとの行動指針の発表

・各実施内容に関する担当者の発表 ・担当例会の日程の検討

### 地域スクラム委員会

平成18年12月5日(火) 於:炉端かば 出席者/10名

議題・11月担当例会の反省

・後期委員会方針 委員会を二班編成とし、それぞれ活動目標を設ける。

第一班 経済効果検証班 第二班 プロセス考察班

### 夢委員会

平成18年12月4日(月) 於:まつだ家 出席者/9名

議題・新入会員オリエンテーション反省会

※役員会報告、連絡事項、会員拡大の件は各委員会とも行われています。詳細については各委員長までご参照ください。

### 社名変更

新社名:株式会社 桑本総合設計

桑本功一会員

(旧社名:株式会社 桑本賢一設計事務所)

### 1月ハンサム編集後記

あけましておめでとうございます。

新年を迎えられ、心も新たに様々な決意をされている事と思えます。

今、若い人たちは、新年のメールや挨拶で「あけおめ」と縮めているようですが、新年の挨拶くらいはちゃんとしてほしいと思うのは、古い世代に入りつつあるのでしょうか。

本年が皆様におかれましてより多き一年になりますことをお祈り申し上げます。(記事:小川)

### 1月役員会報告

1月定例役員会が平成19年1月5日(金)米子食品会館にて開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

・12月忘年例会報告の件 ・1月オープン例会開催の件  
・県青年中央会報告の件 ・その他

### 1月オープン例会案内

と き:平成19年1月12日(金)

19:00~開会

ところ:米子コンベンションセンター 国際会議室

講演:『私の歩んだ道』

講師:岡山県立岡山盲学校 前教頭 竹内 昌彦氏

担当:平成18年度役員